

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
EU11A201		授業開発・学習指導基礎(Foundations of Lesson Development & Learning Instruction)					基礎理論科目										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	1	教育学研究科	前期		氏名 内田昭利, 森竹啓介 E-mail a-uchida@oita-u.ac.jp, moritake-keisuke@oita-u.ac.jp 内線 6135, 6139											
授業の概要	本授業においては、授業での学習支援と指導法に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。確かな学力の形成を促す指導法や学習集団の構成の原理を理論的に学ぶとともに、具体的な授業実践例を題材とした演習に取り組むことで、現状の課題を発見し、具体的な対応策を立案・検討する能力を養う。また、各教科等の評価の基準策定と学力評価法、ICTを活用した指導法の理論を習得し、演習を通じた双方向的な学習によって実践的な力量を構築する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	学習指導の方法、学習支援の在り方に関する理解を深めることができる																
目標2	主体的・対話的で深い学びを促す授業を開発することができる																
目標3	高度な授業開発能力を身につけることができる																
目標4	教科を統合した新たな学びを創造することができる																
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	イントロダクション 「学ぶ」を学ぶ																
2	資質・能力」の育成と「主体的・対話的で深い学び」																
3	各教科の特質に応じた「見方・考え方」																
4	「思考力・判断力・表現力等」と学習指導																
5	生きて働く「知識・技能」と学習指導																
6	「学びに向かう力・人間性等」と学習指導																
7	学習方略：学び方の科学																
8	学ぶ意欲とスキル																
9	学びの支援「スキヤフォールディング」																
10	授業開発演習(1) テーマ：知識構築と協働学習																
11	授業開発演習(2) 提案と討議：知識構築と協働学習																
12	授業開発演習(3) テーマ：知識統合とICT活用																
13	授業開発演習(4) 提案と討議：知識統合とICT活用																
14	授業開発演習(5) テーマ：知識創造と問題解決																
15	授業開発演習(6) 提案と討議：知識創造と問題解決																
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業において設定する演習では、現職院生と学部卒院生とのペアワーク、グループワーク、討論など、アクティブラーニングの手法を取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、実務家・教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。					工 夫 そ の 他 の	LMS (Moodle) の活用									
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	次時の学習内容に関する予習および事前準備(資料収集、資料・文献精読など)(10~20h)															
	事後 学修	演習において討議したことを整理しまとめるとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して、自己の学修到達点を明確にする。(10~20h)															
教科書	特に指定しない。必要な資料は授業中に配布する。																
参考書	学習科学ガイドブック,大島純・千代西尾祐司(編),2019,北大路書房,ISBN9784762850318・学習科学ハンドブック第2版 第1巻 ,R.K.ソーヤー(著,編集),2018,北大路書房,ISBN784762830259・学習科学ハンドブック第2版 第2巻 第2巻,R.K.ソーヤー(著,編集),2016,北大路書房,ISBN9784762829475・学習科学ハンドブック第2版 第3巻 第3巻,R.K.ソーヤー(著,編集),2017,北大路書房,ISBN9784762829987																
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取り組む姿勢、討論への参加など)	70%															
	最終レポート	30%															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	内田昭利（小学校，中学校，盲学校）/森竹啓介（中学校，教育委員会事務局，旧適応指導教室）
実務経験を いかした教 育内容	教諭や指導主事等としての実務経験を生かし、実践の背景にある理論的枠組みや実践について考える方法や視点に関する指導支援を行う